



知れば知るほど楽しくなる

2024.2

# OTARU HEART JOURNAL

「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」  
～「民の力」で創られ蘇った北の商都～

アンケート  
特集号

第4号  
(最終号)



小樽倉庫開業式(明治26年11月12日)  
写真提供:小樽倉庫株式会社

日本遺産候補地域

## 北海道の『心臓』 と呼ばれたまち・小樽

～「民の力」で創られ蘇った北の商都～

小樽市では、小樽独自の貴重な歴史文化遺産を日本遺産として登録するための取り組みを進めてきました。その結果、文化庁より「日本遺産候補地域」として認定され、現在本認定に向け取り組みを推進しています。本アンケートはその一環で、多くの市民の理解を促進するために行われます。

## ストーリーの概要

かつて小林多喜二は、小樽のまちを、北海道の「心臓」と表現しました。明治以降、港と鉄道の「大動脈」により、多数の物資と人が押し寄せ、石造りの商店や大型の倉庫などを造っていきました。明治後期には、大手銀行や商社の支店が進出し、経済の「血液」、金融の力で北日本随一の商都に飛躍して栄華を極め、運河をはじめ近代的インフラが「骨格」としてまちを支えました。

昭和後期、小樽運河保存運動を経て、まちを愛する市民たちの「民の力」で、ロマン溢れる歴史的建造物とまち並みの魅力が再発見され、カフェなどの飲食店、博物館等の文化施設に活用されていきました。かつての商都から、文化と観光の「心臓」に生まれ変わった小樽は、国内外から訪れる人々を魅了し続けています。

山折り(郵送の場合)

84円  
切手を  
貼って  
下さい

047-0031

小樽市色内1丁目9番6号  
株式会社オー・プラン内  
日本遺産磨き上げ推進事業  
アンケート係 行

第4号

※無記名でも構いません。

【差出人】                      ご記入日                      年                      月                      日

ご住所 〒                      -

お名前

山折り(郵送の場合)

✂キリトリ✂(郵送の場合)

昭和初期 北海製罐工場株式会社  
写真提供:小樽市総合博物館蔵 兵庫コレクション



Sub Story of Heart

「北海道の心臓」サブストーリー

## 小樽の新たな鼓動 「旧北海製罐(株)小樽工場第3倉庫」

北海製罐倉庫(株)事務棟、工場、倉庫は、大正11年～昭和10年にかけて小樽運河の埋立地に建設された、舁荷役の最盛期を象徴する建造物です。明治43年、堤商会(現・北海製罐)がカムチャッカに最初の缶詰工場を建設。翌年ロンドンに鮭の缶詰を輸出したことから、汽船の採用と缶詰工場を主体とする工場制工業的漁業へと発展していきます。大正10年には北浜地区に北海製罐倉庫が創設。第1、第2倉庫の建設後、大正13年には第3倉庫が竣工、昭和10年までに主な建物は建築され、第2倉庫、第3倉庫、工場、事務所が現存しています。令和2年、北海製罐(株)から小樽市に第3倉庫解体検討の方針が示されたことで、「第3倉庫活用ミーティング」が立ち上がりました。令和3年、第3倉庫は小樽市に無償譲渡され、小樽港のランドマークとして保全・活用に向けた取り組みが始まりました。夜のライトアップをはじめ、小樽運河100年プロジェクトなどのイベントにも活用されるなど、「民の力」により新たな鼓動が生まれています。

山折り(郵送の場合)

✂キリトリ✂(郵送の場合)

日本遺産候補地域

## 「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」

## 構成文化財のご紹介

※アンケートの回答は裏面の「アンケート回答」にご記入ください。



写真提供:川嶋王志

### 運河完成後の倉庫群

大正後期の倉庫群3件。運河完成後に建設された木骨石造もしくはRCの倉庫群で、運河とともに歴史的な景観を形成しており、商業施設として公開されています。

問1 小樽運河に年に何回くらい行きますか?



写真提供:川嶋王志

### 浪華倉庫

〈現 小樽芸術村 西洋美術館〉

大正14(1925)年建築。市内に現存する木骨石造の倉庫の中でも比較的大きく、運河完成の2年後に建てられました。

問2 小樽運河にはどの季節に行くことが多いですか?



写真提供:川嶋王志

### 澁澤倉庫(現 北海あぶりやき運河倉庫)

澁沢栄一が開業し取得した倉庫のうちの2棟。左「澁沢B号倉庫」(大正14年今井商店より入手)、右「澁沢C号倉庫」(昭和16年新築)。

問3 小樽運河に誰とよく行きますか?



### JR小樽駅本屋及びプラットフォーム(国登録有形文化財)

三代目の駅舎として昭和9(1934)年に完成。当時の鉄道省主要駅と同じデザインが採用された商都小樽の玄関です。

問4 小樽運河でよく行く場所はどこですか?

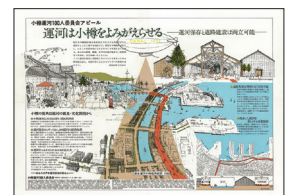


写真提供:川嶋王志

### 中村善策風景画

大正から昭和の、小樽の繁栄期と衰退期の風景を資産家たちの経済援助を受けて描いたもの。歴史資料としても貴重。

問5 小樽運河にあまり行かない場合、その理由は?



### 小樽運河を守る会関係資料

昭和40年～60年代。運河保存運動にかかわるチラシ、ポスター、各種切抜等の資料群。小樽の転換期を物語る資料。

問6 整備前の小樽運河を知っていますか?



インターネットからもご応募できます



### ◆ アンケートのご記入について ◆

日本遺産候補地域「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」を推進するために、本認定に向け令和3年度よりさまざまな取り組みを行なっています。小樽が持っている質の高い歴史文化情報を、市民の皆さんが深く理解し今後も大切に育み将来に残し伝えていくために、現状の認知度を知り、どのように向上させるのかを検討するためのアンケート調査です。ご理解の上、ご協力をお願いします。  
アンケートの締切/令和6年2月25日

《主催》小樽市日本遺産推進協議会  
《連絡先》日本遺産磨き上げ推進事業 アンケート係 〒047-0031 小樽市色内1丁目9番6号  
(株)オー・プラン内 TEL:0134-29-1003 FAX:0134-29-0594 MAIL:daihyo@o-plan.com



あなたが参加する  
我がまちの  
サブストーリー

### 第3号に寄せられたアンケートより

第3号までに600通を超える回答が寄せられています。  
最終号も引き続き、皆様の貴重な「お宝エピソード」をお待ちしています！  
アンケート結果は、今後、小樽文化遺産ポータルで公開いたします。

※文章は、原文のまま掲載しています。  
個人の記憶に基づくものであり、一部事実と異なる場合があることを予めご了承ください。



● 実家が漁業で、車が無い時代の冬は母がガンガンに鮑などを入れバスで漁組まで運んでいた。帰りに市場の並びにある食堂でストーブで温めたコーヒー牛乳を飲んで帰ってきた記憶がある。  
〈小樽市塩谷・60代・女性〉

● スキーのメッカと呼ばれてスキーが盛んだったとともに、市内にアジア・小川・野村などの多くのスキー製作所があったこと。  
〈小樽市・60代・男性〉

● 木下薬局が元多喜二の叔父のパン屋で商大生の多喜二がバイト。パンを盗む子供を追わず悲しい目で見送っていたという。他の店の人は子を追いかけとちめていたということでした。  
〈小樽市潮見台・70代・女性〉

● 20代なかばまで蘭島に住んでいましたが、昭和30年～40年頃の夏の海水浴場のにぎわいは忘れられません。当時の国鉄の列車は海水浴客で超満員！あふれるほどでした。海水浴場の砂浜も今より広く賑やかでした。  
〈小樽市新光・70代・男性〉

● 現在の小樽大正硝子は前身が名取高三郎商店である。電話番号が当時1番であった。第一銀行はこの電話番号1番が欲しくてたまらなかった。何度も交渉したが名取高三郎は頑とこの申し出を断った。負け惜しみで第一銀行は81番とした。  
〈小樽市桂岡・70代・男性〉

● 「花の銀座街」は17時を過ぎるととても賑やかだった。ばんじゅうは6ヶで30円。ラーメン1杯60円。「人間の條件」にはまり夢中になって読んでいた頃作者の五味川純平が勤務先の北海製罐を訪問。マントを羽織った小柄な男性。今も目に浮かぶ。  
〈小樽市長橋・80代・女性〉

## 小樽の価値創造を追求し 小樽への投資を呼び込み 小樽の街づくりに貢献してまいります。



### 株式会社 渋谷建設

〒047-0031 北海道小樽市色内1丁目6-25  
TEL.0134-27-6000 FAX.0134-27-6001 営業時間/9:00~18:00 定休日/土・日・祝  
https://shibuya-k.co.jp



旧 第四十七銀行小樽支店  
(現 株式会社渋谷建設本社)

本紙に掲載されている写真のうち、提供元が記載されていない写真については、小樽市日本遺産推進協議会または本紙編集部の所蔵写真です。

✕キリトリ✕ (郵送の場合)

## アンケート回答

- 問1 小樽運河に年に何回くらい行きますか?  
 1~2回  3~4回  5回以上  行かない
- 問2 小樽運河にはどの季節に行くことが多いですか?  
 春  夏  秋  冬
- 問3 小樽運河に誰とよく行きますか?  
 友人  家族  恋人(配偶者)  ひとり  
 その他( )
- 問4 小樽運河でよく行く場所はどこですか?  
 浅草橋~中央橋  中央橋~龍宮橋  北運河
- 問5 小樽運河にあまり行かない場合、その理由は?  
( )
- 問6 整備前の小樽運河を知っていますか?  
 知っている  知らない
- 問7 焼肉の後にタレスープを飲みますか?  
 よく飲む  たまに飲む  飲まない
- 問8 ばんじゅうを食べますか?  
 よく食べる  たまに食べる  食べない
- 問9 鷗目貫一日誌を知っていますか?  
 知っている  知らない
- 問10 本紙を読んで小樽の歴史への理解が深まりましたか?  
(いずれかの番号に○印をお願いします。)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
深まらなかった				どちらでもない					深まった

- 問11 「日本遺産」という言葉を聞いたことがありますか?  
 聞いたことがある  聞いたことがない

のりしろ

谷折り (郵送の場合)

- 問12 「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」というフレーズを聞いたことがありますか?  
 聞いたことがある  聞いたことがない



- 問13 このロゴマークを見たことがありますか?  
 見たことがある  見たことがない

- 問14 小樽は歴史を活かしたまちづくりをしていると思いますか?  
 思う  思わない

- 問15 あなたは小樽への愛着や誇りをお持ちですか?  
(いずれかの番号に○印をお願いします。)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ない				どちらでもない					ある

小樽の明治から大正・昭和にかけてのものやこと、エピソードなど、直接知っていることや、伝え聞いたことなど、些細なことでも結構ですので、教えてください。(寄せられたエピソードは今後誌面でご紹介させていただくことがあります)

あなたの  
家や店の  
お宝  
エピソード

谷折り (郵送の場合)

谷折り (郵送の場合)

のりしろ

↑ FAX 送信方向

《居住地》  小樽市内  小樽市外  
《性別》  男  女  
《年齢》 歳

✕キリトリ✕ (郵送の場合)

## みんなで育てたい「小樽めし」



寒い北海道で生まれた  
**小樽スープ**  
小樽では定番、焼肉を食べ終わった後のタレに出汁を足して飲む、焼肉タレスープ。小樽スープは他にも、サケやニシンを煮込んだ三平汁、「鍋こわし」ともいわれるかじか汁など。

- 問7 焼肉の後にタレスープを飲みますか?



小樽から道内に伝わった  
**ばんじゅう**  
ぱんとまんじゅうが融合したような、ばんじゅう。明治期に海路で小樽に入り、鉄路で札幌や炭鉱町などに伝わって行ったとも考えられており、市民や観光客にも人気の和菓子です。

- 問8 ばんじゅうを食べますか?

## 歴史を辿る 小樽めしを巡る 鷗目貫一日誌より

明治初年の小樽の「食」を記録したもの。まだ江戸時代の風情が残る小樽の様子とともに、食料の貸し借りや贈答、蕎麦屋や菓子屋の情報など、当時の食文化が記されています。

明治5年5月3日に記述された「牛餅」『鷗目貫一日誌』より

- 問9 鷗目貫一日誌を知っていますか?

アンケートの回答は上記の「アンケート回答」にご記入ください。



小樽食文化探訪  
「おいしい小樽めしをどうぞ!」

